

町内会・自治会等ヒアリング（1回目）  
地域の資源・課題編 結果概要

上田地域

※主な意見等を抜粋しています。また、同種の内容はまとめて記載しています。

「問1」については、各町内会等が主に属する地域の【地域別構想】をご覧ください、平成21年度の見直し時から約10年が経過したことを踏まえ、記載されている内容について、この約10年間で感じる地域の課題や変化、意見等についてお聞きしました。

①『地域の好きなおところ』について

- 聖寿禅寺をはじめ南部藩に関わる歴史のまち。
- 追加：高松の池に隣接する競馬場跡地「こがねパークたかまつ」。
- 訂正：歴史めぐり神社の「八幡神社」は「八幡森神社」ではないか。
- 当地区は市中心部より高台に位置。災害も比較的少なく地域環境は極めて良好。主要道のバス路線も官庁街・駅方面には確立されており、ダイヤも充分といえる。
- 高松公園一帯は近年、重点的に整備されてエコアス広場や多目的運動場も作られて盛岡市の代表的な憩いの場で地域の活性化に充分寄与している。
- 小、中、高、大学が存立し文教地区で学生との接点も多く、まさに「岩手の大地と人と共に」が具現化。
- 特に意見はありませんが、自然環境をこのまま残してほしいと思います。

②『地域の課題』について

- 高齢化⇒空き家問題⇒坂が多く高齢者は大変。
- 冬場に除雪車が入らない（赤山、旧桜山⇒三ツ割への道路）。
- バイパス横断の歩道信号が短く、足の弱った老人は大変⇒多くの声が寄せられている。
- 道路が狭いので歩行者が歩きづらい。電柱が地下に入れば少し安心して歩けるのでは。
- 競馬場跡地は「こがねパークたかまつ」として整備され、市民の憩いの場、散策の場として利用を図りたい。また広いスペースなのでスポーツも含めたイベント、大会の開催を期待したい。現在、地元商店会が中心となってクラフト市、音楽祭、上映会などが開催されている。
- 高松の池の水質の悪化。
- 芝水園の活用。
- 旧競馬場の道路開通に伴い団地内道路が抜け道となり事故等が不安。
- 住環境もよいが住宅地の区画がまちまちで生活道路が整備されない。行き止まり、狭窄部分が多く救急車両の通行難等、改善に進展性が見られない。
- バス路線が主要道（南北）の縦線に比して横線、経路線が不十分で高齢者の外出や学生の居住に難。空き家の要因にもなっている。
- 文教地区として誇りが高いが地域と学校の連携、交流の施設が少ない（高松、緑が丘地域）。
- 各町内、項目に列記されている地域課題は短所として共通認識としてワーキングテーマとして長期的展望として方策、改良、改善を図るよう努めてもらいたい。
- アパートの住民との交流がない。
- 少子高齢化の波は緑が丘地区も進んでいる。地域のコミュニケーションの核になっている町内会、老人クラブも役員の成り手がなく不安になっている。高齢化とうらはらに一人住まい、空き家の増加など不安要素も多い。
- 除雪対策はまだ不十分だと思います。高齢者世帯が増加し、雪かきができない家庭が増えていきます。

③『地域の資源・課題マップ』について

- 昔ながらの細い道が多く老人には不安、また除雪車がこない。
- 競馬場跡地は一部を除いてほぼ整備されました。「こがねパークたかまつ」は高松の池に隣接するエリアとしておおいに活用を図りたい。
- 高松の池公園の湿地の整備、貴重な葦生であり野鳥の生息地としての資源。葦が刈込されず倒れて放置されると湿地が消滅する。既に野鳥の種類減少⇒緊急。
- 盛南開発に準じて盛北開発（仮称）の推進化。
- こんな施設が不足している（交番がない、公園が小さい）。
- 活動センターも多様な活動の拠点、施設になってほしい（図書が手軽に手に入る、読める）。

④その他●北山地域は高齢化が急速に進み隣近所で助け合う「近助」を呼びかけている。

- 資源回収も自治会ボランティアは減少し子ども会を主としている。
- 仁王地区「まちづくり」でお寺の活用が話題になり「寺子屋」活動を仁王福祉推進会と市社協と橋梁して行っている。
- 高層マンションが建設されて子ども会の子どもの数が増えて若い住民が増えてきている。若い人の意見を聞く機会はあるほうがよい。
- 競馬場跡地利用の提案⇒「こがねパークたかまつ」の利用の提案（まちの活性化）。
- 高松公園内の車両制限について、池周遊の道路はあまりに車両通行が多い。生活道（車での）とも思われない。他県からの旅行者にも不評。安全安心の対策を望む。
- 道路（アスファルト）の補修が追い付かない。
- 雪道の除雪が少なく、除雪も丁寧さがほしい。

「問2」については、まちづくり全般に関する意見についてお聞きしました。

- 盛岡市は消費中心のまち、生産活動を増し、若者、子どもが増えるまちにしてもらいたい。
- 住みたい、住み続けたいまちづくりは全市民の願いです。盛岡を訪ねる人にうるおい、やすらぎを感じていただけるまちであってほしいと思います。市民ひとりひとりの価値観は違いますが、共通の財産として、岩手山の眺望、市内を流れる川（北上川、中津川、雫石川など）は私たちに与えられた自然環境です。地域に育まれてきた伝統文化とともにまちに落ち着きと人の温かさを感じさせるものとして大切にしていきたいと思います。
- 自然災害に対する減災の啓蒙（市民）に取り組んでほしい（パブリックコメントの制度化）。「防災は最大の福祉」ひとりでも被害者を少なく（中学生以上に啓蒙を）。
- 住宅地道路の拡幅（緊急自動車の侵入促進）。
- 盛岡駅直行、直近のバス運行。
- 旧競馬場跡地の未施工箇所のテニスコートの建設とか。
- 高松公園の池の整備（植物、鳥獣保護、水の流れ浄化）。
- 高松公園をもっと盛岡市民に活用してもらうことが必要だろう。あの場所が賑わっている日は本当に少ない。地元の人たちの散歩コースで終わっている（もともとの開発コンセプトを知りませんが）。
- 盛岡の開発の中心は盛南地区に向かい、上田、緑が丘の役割をみんなのものにしてほしい（盛岡市での役割をはっきりさせてほしい）。

町内会・自治会等ヒアリング（2回目）  
まちづくりの方向性と基本方針編 結果概要  
上田地域

※主な意見等を抜粋しています。また、同種の内容はまとめて記載しています。

「問1」については、添付した地域の現状データや、1回目のヒアリングの結果概要及び各町内会等が主に属する地域の【地域別構想】を確認いただき、各項目への追加、修正点や今後の地域のまちづくりに関する意見等についてお聞きしました。

①『まちづくりの方向性』について

- 北山地区は交通の便がなく、高齢者は苦慮している。また、冬には除雪がなされない場所が多く、歩行に不安を感じている。
- 地域コミュニティの再生が課題と考える。上田通り商店街に小規模出店、空き店舗を活用した地域交流拠点等への助成措置を検討してはどうか。
- 高齢者、障害者にも快適な道路づくり。
- 高松の池、こがねパークたかまつと四季を通じた自然環境を加味した魅力を活かしたまちづくり。

②『まちづくりの目標』について

- 高齢者にとっての住みやすさ、子育て世代にとっての住みやすさ、若者にとっての住みやすさ、それぞれに違いはあるが、共通するのは安全・安心・便利さということだろうか。
- 自然と歴史に満ちた教育文化の高い住みよい環境をみんなで共有して築き上げて推進を図る。

③『まちづくりの基本方針』について

- 賑わいの創出が必要。子どもたちに故郷として捉えてもらえるような地域づくりをしていくこと。
- 活動の輪を広げみんなが一体となってまちをつくる。こがねパークたかまつと高松の池一帯を有効に活用して工夫を図りながら賑わいのある拠点として地域づくりに取り組みたい。

④『まちづくりの方針マップ』について

- 上田地域は住民の高齢化・少子化・商店街の衰退などにより元気のないまちになってきているように思う。まちづくりに関わろうとする住民の気持ちを引き出すことが必要。
- 館向町の場合、上田通り商店街との経済的なつながりはほとんどなく市中央部商店街に出かけることが多い。

「問2」については、広く今後のまちづくりについて検討する必要があると感じることについてお聞きしました。

- 北山トンネルができ松園から市中心部への交通の便がよくなった。できれば北山トンネル、中央病院経由のバス路線ができてほしい。
- 災害時の避難所が決められていますが高齢化のため避難所の増設と上田地区全体の避難訓練を検討していただきたい。
- 文書による検討ではなくワークショップ形式の集会を開催しながらまとめていく必要があるのではないのでしょうか。